

宿と地ビール 新名所に

城下町秋月で町おこし

銀行跡地創設者ひ孫が活用

福岡銀行の源流となった地場銀行の一つ、旧秋月銀行（朝倉市）の創設者のひ孫に当たる井村幸男さん（74）が、銀行跡地で町おこしに取り組んでいる。一帯に宿泊施設やクラフトビールの小規模醸造所を整備し、3月下旬から現地ビールの一販売を開始する。名産品として育て、秋月地区に多くの人を呼び込む夢が膨らむ。

古処山系の麓に位置するに指定され、1899年に月街道沿いにある。「旧秋月銀行跡地」。城下町だ。井村さんの曾祖父市太郎さんが設立した秋月銀行の跡地は、その中心部を貫く秋



井村さんは福岡市在住の税理士。秋月に暮らしたご

●秋月銀行跡地で営む1棟貸しの宿「月の離なれ」
●1階に仕事用スペース兼キッチン、2階には寝室3室がある新館

地元の水を使い、倉庫を改装した醸造所（後ろの建物）で造ったクラフトビール「秋月クラフト」

醸造所も整備 「地域の価値高めたい」

とはないが、跡地を相続し、川付近で飛び交うホテルが縁あって2018年に秋月に見られるという。銀行関連の資料を福銀に寄贈した縁があり、跡地利用を考えるようになった。

秋月は桜の時期などは観光客が多いが、幹線道路から離れ過疎化が進む。人口は400人ほど。保存地区内の建物は、歴史的外観を維持する家屋修理などに補助金が出る一方、思い通りに改築しづらい制約もあり、壁が壊れたりツタがはびこったりした空き家状態の建物も目立つ。

「こうした状況に知らないふりをしたままでもいいのか、考えさせられた。跡地を再生させ、人呼び込み、地域の価値を高められないだろうか」。そう考えるようになった。

井村さんは敷地内の民家の改装から手を付け、21年11月から素泊まりの宿「月の離なれ」の営業を開始。1年後の22年11月には、仕事用スペース兼キッチンを備えた全3室の新館（素泊まりで1室税込み1万3200円）をオープンした。部屋や庭からは古処山系の山々が望め、夏には横の小

川付近で飛び交うホテルが縁あって2018年に秋月に見られるという。銀行関連の資料を福銀に寄贈した縁があり、跡地利用を考えるようになった。秋月は桜の時期などは観光客が多いが、幹線道路から離れ過疎化が進む。人口は400人ほど。保存地区内の建物は、歴史的外観を維持する家屋修理などに補助金が出る一方、思い通りに改築しづらい制約もあり、壁が壊れたりツタがはびこったりした空き家状態の建物も目立つ。「こうした状況に知らないふりをしたままでもいいのか、考えさせられた。跡地を再生させ、人呼び込み、地域の価値を高められないだろうか」。そう考えるようになった。井村さんは敷地内の民家の改装から手を付け、21年11月から素泊まりの宿「月の離なれ」の営業を開始。1年後の22年11月には、仕事用スペース兼キッチンを備えた全3室の新館（素泊まりで1室税込み1万3200円）をオープンした。部屋や庭からは古処山系の山々が望め、夏には横の小

(仲山美葵)